

ハイチ レオガン日記 第5弾

安藤 享子

ボンジュール、キジャンウィエ？（こんにちは、お元気ですか？）

今回は、新しく始まった子どもに向けての活動についてお話しをしたいと思います。現在、我々が行っているコミュニティに向けての健康衛生普及活動の中には、マラリアやデング熱、コレラといった病気を予防するにはどうしたらいいかという感染症予防のトピックがあります。コミュニティでボランティアさんが活動する場合、絵などを見せながら地域住民に説明します。そして、大人が集まるところには自然と子どもも集まってくるので、子どもたちに対する取り組みができないかと考え、「病気を予防できるように分かりやすい紙芝居を作って、コミュニティを回ろう」という計画を立てました。

ハイチの子ども事情

ハイチの出生率は3.5人(2008年、国連人口局)ですが、以前のレオガン日記で池田さんが指摘されたように、子どもの数はコミュニティによってかなり偏りがあります。識字率は62.1%で、世界183ヶ国中158位(2008年、人間開発レポート)。ハイチの義務教育は、幼稚園から中等教育まで14年間だそうです。幼稚園は3歳から入れますが、私立が多いため、保護者の負担は軽くないようです。小学校入学の時期は、6～8歳と多少バラつきがあり、小学校が6年間で、卒業すると中等教育の学校が6年間あります。義務教育とはいえ、お金や家の事情により学校に通えない子も昔よりは減ったものの、多くいるそうです。初等教育の就学率が男子48%、女子52%と高くなく(ハイチの隣国ドミニカ共和国では、男子88%女子90%と高率)、平日でもコミュニティに行くと、多くの子どもを見かけます。公立学校の場合でも、私立と比べるともちろん学費は少ないのですが、お昼ごはんが出ないところも多く、文具など出費がかさむことから、中途退学してしまう子どももいます。

紙芝居の文化がハイチにはなく、子どもの顔を描いてもらったら、右のような感じになりました。ピアスをした個性的な女の子です。ストーリーはスタッフが考え、日本人が絵を描くことにしました(さいたま日赤のスタッフに協力していただきました)。学校が終わった時間等を見計らって子どもを集めると、一度に100人以上集まってきたこともありました。





紙芝居を読むのは、地域ボランティア



続いて、子どもたちが紙芝居を復習

みんな、興味津々に物語を見てくれて、それが終わったら子どもが紙芝居を読んで復習します。中には、「暑くても蚊帳は使わないといけないんだよ！」と熱弁する子どもがいたり、たった5歳の子でも、クイズをすると一番答えられたり、大人以上に知識を持っていてこちらがびっくりさせられることもあります。日々の地道な活動が、徐々に定着していることを実感します。現在、マラリアと予防接種そして結核の紙芝居ができあがりました。他にもコレラや手洗いの大切さを学べる紙芝居を作成中で、最終的にコミュニティに配って衛生普及活動が定着するように計画中です。



結核と予防接種の紙芝居

ハイチよもやまばなし:その②

ハイチにはヘアサロンがたくさんあります。一目でここか！と分かるのは、右のように建物の外壁にそれと非常に分かりやすい絵が描かれているからです。

聞くと、男性は2～3週間に1度ヘアサロンに行くらしく、1回につき2～3ドル程度。オプションの髭剃りをつけても、4ドル程度で安価です。剃刀の刃は、昔は使いまわしも多かったそうですが、今は毎回変えているところがほとんどのようです。もし変えていなくても、刃こぼれして出血させてしまった場合は、必ず替えているそうです。「切れないはさみで、めちゃくちゃ痛かった」とこぼす要員もいました。元々の髪質から、伸ばしていけば自然とアフロヘアになります。ただ、髪を伸ばす人は「アーティストか悪人」と言われているらしく、頻回に髪を切っています。お金のない子どもたちは親がカットしたり、友達同士で切っており、コミュニティに行くとたまに見かけます。



一部のヘアサロンは、いわゆるコミュニティスペースになっており、ある床屋では、テレビを設置しているため、サッカーの試合や映画等、お客さんでない人たちも大勢集まり、皆で夜遅くまで観ていることもあります。テレビがなくても、おしゃべりをしに人が集まったりして、一つの社交場のようです。

女性の場合は、髪型を変えるのが好きで、オフィスのスタッフは1～2週間に一度は美容室に行っています。エクステンションをつけたりするのですが、髪形の変わりようがあまりに激しいので、毎週月曜日は皆のヘアスタイルがどうなっているのか見るのが、ひそかな楽しみです。

それでは、ボンジュネー(良い一日を！)